

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第3大会（第5戦／第6戦） 参戦レポート

8月6日（土）～7日（日）、富士スピードウェイ（静岡県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第3大会（第5戦、第6戦）が開催されました。HFDP(Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 小出峻（1999年10月26日生まれ 22歳）、#6 西村和真（1999年7月21日生まれ 23歳）、#7 三井優介（2002年4月22日生まれ 20歳）の3人が参戦しました。

小出5連勝、HFDP開幕6連勝

■公式予選（20分間+20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

公式予選は8月6日土曜日、午前8時10分から予定されていましたが、富士スピードウェイは早朝から深い霧に包まれました。主催者は天候回復を待ってセッション開始を延期しましたが、回復傾向にはあったものの十分な視界を確保することができず午前8時20分の段階で公式予選のキャンセルが決まりました。



この決定を受けて、第5戦・第6戦の決勝スターティンググリッドは、2022年FIA-F4選手権統一規則「第28条スターティンググリッド7.」に基づき、第5戦については金曜日に2回行われた専有走行セッションで記録されたラップタイムを基準に大会審査委員会が配列し、第6戦については第5戦の決勝レース中に記録された選手毎のベストラップタイムの順で決めることとなりました。

この結果、#5 小出はポールポジション、#7 三井は4番手、#6 西村は5番手のポジションにつきました。
#5 小出のポールポジションは開幕戦以来5回連続となりました。

【第5戦スターティンググリッド】

1番手 #5 小出 峻 1分46秒739
4番手 #7 三井 優介 1分47秒139
5番手 #6 西村 和真 1分47秒145

■第5戦決勝レース（14周）：天候/曇り 路面/ドライ

予選が行われなかったため、予選タイムアタックで使用する予定だったニュータイヤが余り、全車ニュータイヤを装着して決勝レースに臨むこととなりました。コースはドライコンディションとなりましたが、8月としては異例なほど気温、路温ともに低下し、ニュータイヤのウォームアップが問われます。



午後1時50分にフォーメーションラップが始まり、午後1時54分に14週のレースがスタート。ポールポジションの#5 小出はイン側に寄って後続を牽制すると、先頭で第1コーナーへ飛び込みました。これに#35 荒川鱗、#80 伊東黎明、#7 三井、#6 西村とグリッド順通りの選手が続きました。

ところが中団グループで接触事故が発生したため、オープニングラップのうちにセーフティカーが介入しました。レースは3周終了時点で再開。リスタートで#5 小出と#35 荒川選手が抜け出し、わずかに遅れる形になった3番手#80 伊東選手に4番手#7 三井が迫ると第1コーナーのインに飛び込んで3番手へ浮上しました。

一方5番手につけていた#6 西村はリスタート後のペースが上がらず後方集団に追いつかれ、取り込まれる形で順位を落とし、8周目には10番手となりましたが、そこからペースを取り戻し10周目には9番手へ順位を上げました。



先頭の#5 小出は後続の#35 荒川選手との間に1秒弱の間隔を保って首位を走り、3番手#7 三井はそこから2秒後ろに続きましたがその背後で4番手争いが激化したため集団を引き離して単独3番手のポジションを確保しました。#5 小出は後続との間隔を守ったまま14周を走りきり、



優勝のチェッカーフラッグを受けました。#7 三井は3位、#6 西村は9位でレースを終えました。第2戦から4連勝を遂げた#5 小出はシリーズポイントランキングで#7 三井を逆転しポイントリーダーとなりました。ランキング2番手には#7 三井が続きました。

また、決勝レース中に記録したベストタイムにより、第6戦のスターティンググリッドは#7 三井が2番手、#5 小出が3番手、#6 西村が12番手と決まりました。

【FIA-F4選手権シリーズ第5戦・レース結果】

#5 小出 峻	決勝1位 (27分27秒132)	ベストタイム	1分46秒453)
#7 三井 優介	決勝3位 (27分29秒949)	ベストタイム	1分46秒341)
#6 西村 和真	決勝9位 (27分40秒293)	ベストタイム	1分46秒821)

【第6戦スターティンググリッド】

2番手	#7 三井 優介
3番手	#5 小出 峻
12番手	#6 西村 和真

■第6戦決勝レース（14周）：天候/曇り 路面/ドライ

夜半に降った雨で路面の一部は濡れていたものの、富士スピードウェイの天候は回復し、雲間から太陽が射す中、午前8時04分に第6戦の決勝レースがスタートしました。2番手からスタートした#7 三井は、ポールポジションからスタートした#36 小林利徠斗選手の加速が鈍る間にイン側へ並びかかり、順位を入れ替えてトップに立ちました。#5 小出は#36 小林選手に続く3番手で第1コーナーを抜けました。



#5 小出は勢いに乗って2番手#36 小林選手に迫り、2周目の最終コーナーで#36 小林選手のインに飛び込んで2番手へ進出しました。#36 小林選手はストレートで#5 小出のスリップストリームに入り並走して順位を入れ替えましたが、#5 小出は逆にスリップストリームを使い、3周目の1コーナーのインへ飛び込み、2番手のポジションを取り返しました。



3周目を終わった段階でトップの#7 三井と2番手#5 小出は3番手以降を引き離す形で1-2体勢を固めました。2番手#5 小出はトップの#7 三井との間隔をじりじりと縮め、5周目の1コーナーで#7 三井のアウト側に並び、並走してコココーラコーナーのインを取って順位を入れ替えました。

#5 小出と#7 三井が闘う間に3番手以降が追いつき、2番手に後退した#7 三井に3番手の#35 荒川選手が9周目の第1コーナーのイン側に並びかかりましたが、#7 三井はからくも自分のポジションを守りました。その後#7 三井の後方では3番手争いが激しくなったため、#7 三井は単独で2番手ポジションを確保し、レース終盤にはトップを走る#5 小出に迫ろうとしましたが、#5 小出はこれを突き放し、14周を走りきって5勝目のチェッカーフラッグを受けました。#7 三井は2位でレースをフィニッシュ、中団に取り込まれてしまった#6 西村は11位でレースを終えました。

この結果、#5 小出は第1大会第2戦から5連勝を飾り、シリーズポイントを125点に伸ばしてランキングトップに立ちました。また開幕以来6戦連続で表彰台に上がった#7 三井は13点差の112点でランキング2位に続き、#6 西村は26点でランキング8番手につきました。また、HFDPは開幕以来全勝の6連勝を記録、チーム部門で2番手に71点差の150点でトップを守りました。



【FIA-F4選手権シリーズ第4戦・レース結果】

#5 小出 峻 決勝1位 (25分03秒220 ベストタイム 1分46秒846)
#7 三井 優介 決勝2位 (25分04秒384 ベストタイム 1分46秒758)
#6 西村 和真 決勝11位 (25分18秒931 ベストタイム 1分47秒252)

■2021FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2022 シーズン第6 戦終了時点)

1 番手 #5 小出 峻 125 点

2 番手 #7 三井 優介 112 点

8 番手 #6 西村 和真 26 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点、)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2022 シーズン第6 戦終了時点)

1 番手 HFDP 150 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 小出 峻



パーフェクトではないですけど、自分としては満足できるレースができました。この富士で、あれだけ前に抜け出して、つけている隙も与えずにレースができたっていうのは、すごい大きな自信につながります。第6戦は今年初めてポールポジションではない3番手からのスタートだったので、これまで僕が培ってきた実力が試されるだろうなと思っていましたし、周りもそういう目で見ているだろうなと思っていました。そのプ

レッシュャーは多少ありましたけど、自分がやらなければならないことは変わらないので、それをしっかりと見失わずにレースをしようと思っていました。スタートは多少遅れたんですが、走る前に色々シミュレーションしていたので、冷静に前に抜け出せました。後ろからでもいつでもどこでも抜けると言う自信もありました。今年3年目を迎えた自分の実力を見せられたかなと思います。ランキングトップにはなりましたがチャンピオンのことはまったく考えていません。目の前のレース1戦1戦をこなしていくことに重点を置いています。



●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 西村 和真



木曜日、金曜日と、雨が降ったりドライとは言えコンディションが前回の大会と全然違っていたうえ、予選もキャンセルになって走れなかったりして、自分の立ち位置がわからず不安なまま第5戦のスタートに臨んだんですが、混戦の中でやっぱりどうしても集団の中での走り方を意識し過ぎてペースを落としてしまったりミスしたりしてしまいました。納得がいくレース

ではありませんでした。第6戦でもポジションを落とす一方でしたし戦えるペースではありませんでした。自分で闘った気がしない週末でした。次の鈴鹿まで あまり時間はないですけど、しっかり考えて、動画なり、データなりを良く見て研究して臨みます。



●ドライバーズコメント : #7 HFDP RACING 三井 優介



第6戦は、やられたな、悔しいな、と。それだけです。せつかく小出選手の前に出られたレースだったのに、自分に足りていない部分が良くわかったレースでした。僕の走りは幅がなくて、ある程度離れて前の人を追いかけるパターンであれば、うまくいくんですが、すぐ後ろを走ると、合わせるのが下手だったり、いざトップに立ったら立って、メンタルコントロールが下手で余計に緊張してしまったり硬くなったり、後

ろを気にし過ぎちゃったりしてしまいました。今回それがわかって経験できたのはすごく良かったと思います。ランキングに関しても、あんまり気にしてはいません。シリーズ前半戦は経験を積むための期間です。自分で色々足りないところを探して吸収し、シリーズ後半から1戦1戦大事に追い上げる形でどんどん攻めていければいいなと思っています。今のところ自分に点数与えたとしたら70点ぐらいです。感じたことをまだ自分の走りに反映できていない面があります。努力が足りないと言えばそれまでですが、自分にはまだ成長できる部分がまだまだあると思っています。

